

関連事業の紹介について

【雄物川】秋田地区河川防災ステーションの整備について

- 雄物川下流域では、平成29年7月、平成30年5月洪水で家屋等の浸水被害が発生しています。
- 秋田地区河川防災ステーションは、雄物川下流域の洪水被害を最小限とするため、災害時の緊急復旧活動を行う上で必要な緊急用資材の備蓄、ヘリポート等の整備を行うとともに、緊急車両基地や秋田市が水防センターを設置するなど、災害時の活動拠点としての利活用するなど計画しています。
- 令和4年3月25日に河川防災ステーションの整備計画が登録され、令和4年度より事業に着手しています。



令和4年度事業内容 : 河川防災ステーションの詳細設計及び用地調査を実施

河川防災ステーションの役割

- 洪水時に河川管理者が行う災害復旧活動の拠点として整備するもので、大半は市町村が行う水防活動の拠点（水防センター）を併設しています。
- 土砂やブロックなどの緊急用資材を備蓄しておくほか、ヘリポートや災害対策車両の待機場所なども確保しています。
- 平常時には地域の人々のレクリエーションの場として、また河川を中心とした文化活動の拠点として大いに活用が期待される施設です。

<災害時>

- 被災箇所の復旧工事のための材料備蓄
- 排水ポンプ車など災害対策車両、防災ヘリの拠点
- 水防活動の拠点（水防団）



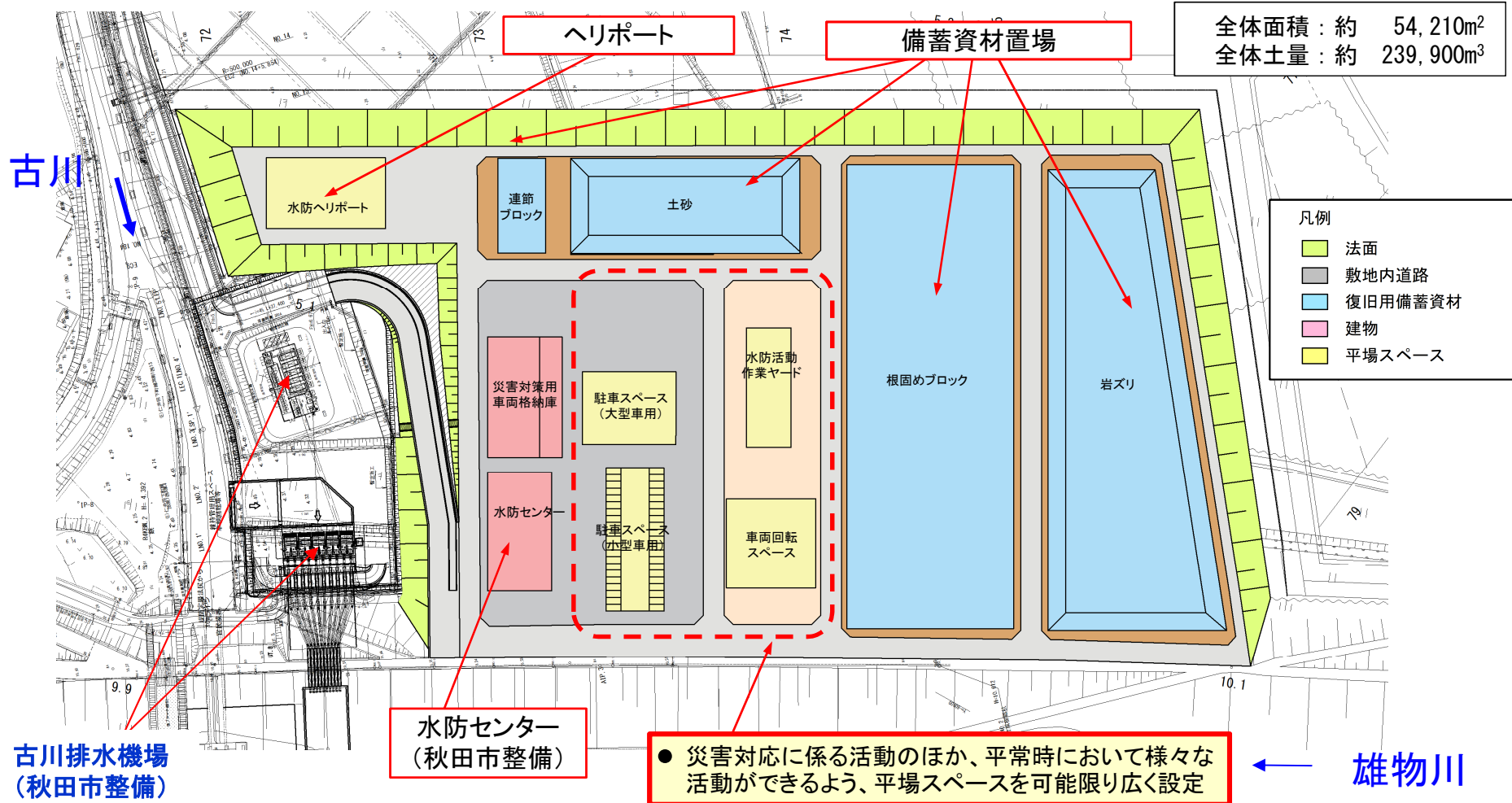
<平常時>

- 地域のコミュニティースペースとして活用
- 水防活動の訓練などに利用
- 防災学習の場や川の情報発信拠点



秋田地区河川防災ステーション(平面配置予定)

■ 秋田地区河川防災ステーションの整備については、古川流域で進められている関係機関による事業と連携を図りながら計画的に進め、一体的に整備を進めて参ります。



注)記載内容は、最終精査により、若干変更が生じる場合があります。

令和5年度事業(予定) : 用地協議・用地取得を行う予定。

雄物川の河道掘削(H29~R2)

- 秋田河川国道事務所では、洪水時における雄物川の水位低下と古川からの排水をより効率化するため、雄物川の河道掘削をしています。
- H29の仁井田地区から始まり、小山地区までの区間(約40万m³)をR2に完了しています。

